JAIST Repository
https://dspace.jaist.ac.jp/

Title	TARAの挑戦
Author(s)	吉崎，亮造
Citation	年次学術大会講演要旨集，12: 284-285
Issue Date	1997-09-26
Type	Presentation
Text version	publisher
URL	http://hdl.handle.net/10119/5587
Rights	本著作物は研究・技術計画学会の許可のもとに掲載するものです。This material is posted here with permission of the Japan Society for Science Policy and Research Management.
Description	シンポジウム

JAIST
JAPAN
ADVANCED INSTITUTE OF
SCIENCE AND TECHNOLOGY

Japan Advanced Institute of Science and Technology

シンポジウム

TARAの挑戦

吉崎 亮造（筑波大学先端学際領域研究センター）

先端学際領域研究センター（TARAセンター）は、筑波大学という新しい大学組織の中で精一杯のいろいろな試みを盛り込んだ新しい学内共同利用センターである。

１９９４年の発足に向けて１９９３年の１２月に「TARA 宣言」を公表し、TARA構想が明らかにされた。TARAセンターの目的は、「産・官・学」研究連携という形態をとりつつ、学際領域における最先端研究を推進し、基礎研究の活性化を目指すとともに大学の研究成果を積極的に新しい産業技術として社会還元することである。

TARAセンターの特色は従来の固定化された組織とは異なり、７年で研究アスペクトを見直し、３年で研究プロジェクトを見直すと言った流動的研究組織である。このようなTARAセンターには次の５つの基本原則がある。

１．異種研究機関の融合

２．徹底した競争原理の導入

３．厳格な外部評価システムの採用

４．重点的環境整備の実行

５．研究成果の積極的社会還元を行う

TARAセンターは発足後３年間を経過し、最初にスタートして研究プロジェクトの更新も行われた。私たちがこのTARAの経験の中で何を学び、何を得たのかを明らかにして行きたい。

一方、TARAセンターのスタートと歩調を合わせるかのように１９９５年１１月には科学技術基本法が成立し、翌１９９６年７月には科学技術基本計画が閣議決定された。この基本計画によれば、次の８項目が目標として掲げられてい

る。

1．競争的研究環境の推進
2．流動的研究環境の整備
3．厳格な研究評価の実施
4．研究情報の公開
5．研究成果の社会還元
6．国内研究交流の推進
7．国際研究交流の推進
8．事務処理の迅速化、効率化、簡素化

TARAセンターの基本原則とかなりオーバーラップするところが多い。このことは私たちがTARAセンターの運営を通して経験してきたことが、科学技術基本計画を推進する上でかなり参考になるのではないか、ということである。

このような立場からTARAセンターのこれまでの挑戦の歴史を中心にお話ししたい。